

沖縄タイムズ 2004.10.23 (27頁)

沖縄平和賞

AMD Aに結の心

菅波 被災地支援決意新た



沖縄平和賞を受賞し、詰め掛けた出席者らから祝福を受ける菅波茂理事長
(中央) 22日午後6時30分ごろ、名護市・万国津梁館

「弱者には弱者の痛みが分かる。不条理な歴史を背負ってきた沖縄の人々とともに、平和への思いを発信していきたい」。二十二日、名護市の万国津梁館で沖縄平和賞を受賞した国際医療援助団体「AMD A (アムダ)」の菅波茂理事長(五七)は決意を語った。中南米の被災地で医療支援を行ってきた沖縄支部の医師らも「受賞は励みになる」と今後の活動に意欲を見せた。(一面参照)

AMD Aは「相互扶助」「多様性の共存」などを理念に掲げ、アジアやアフリカ、中南米などで医療を中心とした人道支援を実践してきた。

「沖縄の結の精神とも通じること菅波さん。人道支援に一番大事なのは互いの尊敬と信頼。自らの意思で選択肢が持てない状況に置かれている沖縄だからこそ世界の人々の痛みが分かると思う」と受賞の意義を語った。県系人が多い中南米で

の活動について「県とともに緊急時の災害救援に取り組み組織を立ち上げたい」と提案。「沖縄戦の記憶を風化させないため、戦火や災害、貧困に苦しむ現場で若者に体験を積ませてはどうか。われわれが受け皿になれる」と話した。

一九九八年にニカラグアのハリケーン被災地で二週間、緊急医療活動を行った沖縄セントラル病院のルイス渡久地医師は「現地の人に喜ばれ、自分にとっても大きな経験だった。受賞にわずかも貢献できてうれしい」と喜んだ。